

受診者のアンケートから見た with コロナ時代における人間ドック運営

医療法人大宮シティクリニック 理事長 中川高志

はじめに

新型コロナウイルス（coronavirus disease 2019; COVID-19）の世界的流行は終息の目処は立たず、私達の日常に大きな変化を与えている。特に感染拡大の予防を目的に三密回避を主軸とした生活制限は多くの産業の形態を変化させている。これらの変化は長期化する COVID-19 の流行により恒久的なものへとなりつつある。このような恒久的変化を総称し“with コロナ時代”や“新しい日常（New Normal）”といった概念が広まりつつある。このような時代に人間ドックはどのような価値を受診者に提供していけるのか、これについて考える必要がある。そのため我々は、当院受診者に対して受診の意識調査を行い、with コロナ時代における人間ドックの必要性和今後の運営について検討した。

1. アンケート調査による人間ドック受診者の意識調査

2020 年 7 月 13 日から 7 月 18 日の当院人間ドック受診者を対象とした。調査内容は、性別、年代、当院受診歴に加え、“1. 人間ドック受診をすることへのコロナ感染への不安の有無”、“2. コロナの流行により健診が受けられなくなる事への不安の有無”、“3. 当院の感染防止対策についての評価”、“4. 人間ドックの結果説明をオンライン化した場合に利用するか”の 4 項目について 3-4 段階での評価とし無記名にて行った。当院の感染防止策としては総合健診医学会と人間ドック学会を含む 8 健診関連団体の合同マニュアルを準拠している。¹これらのアンケート調査の結果についてまとめた。

2. アンケート結果

全受診者 843 人のうち 87.8%にあたる 740 人から有効な回答が得られた。男女の割合は男性 60.7%（449 人）と女性 39.3%（291 人）で、年齢構成は 30 代以下、40 代、50 代、60 代、70 代の順に 11.5%-35.0%-35.7%-15.3%-2.6%、受診歴は初回が 15.4%（114 人）で複数回以上が 84.6%（626 人）であった。アンケート調査の“1. 人間ドック受診をすることへのコロナ感染への不安の有無”については「不安がある」、「不安が少しある」、「不安はあまりない」、「不安はない」の順にその割合は 13.6%-52.4%-20.9%-13.0%であった（図 1）。

“2. コロナの流行により健診が受けられなくなる事への不安の有無”については、「不安がある」、「不安が少しある」、「不安はあまりない」、「不安はない」の順にその割合は 35.1%-48.9%-10.7%-5.3%であった。“3. 当院の感染防止対策についての評価”については「よかった」、「普通」、「よくなかった」の順に 60.0%-37.2%-2.8%であった。“4. 人間ドックの結果説明をオンライン化した場合に利用するか”については「利用する」、「利用を検討する」、「興味がない」、「利用しない」の順に 15.9%-58.2%-20.1%-5.7%であった。

3. アンケート結果から見る with コロナ時代における人間ドック運営

アンケート期間における受診者の性別、年齢構成、受診歴については毎年の受診者の比率と大きく変動はなかった（例年の状況のデータは未提示）。アンケート結果として受診者の60%以上がCOVID-19への感染リスクへの不安を持っていることが示された。反面、人間ドックの受診の機会がなくなることへの不安も大きく、75%以上の受診者が人間ドックを受けられなくなることへの不安を感じていた。これは、COVID-19感染の社会的不安が背景にはあるが、人間ドック受診の重要性についての理解が各々の受診者にあることを示していると考える。つまり、多くの受診者にとって人間ドックは不要不急のものではないことが示された。しかし、これらは受診者の感情に基づく結果であり、感染予防策が不十分と受診者が感じれば、人間ドック受診を不要と考える割合が増加すると考えられる。そのため、徹底した感染防止策の実施が必要である。

幸いなことに、当院の感染防止策について、ほとんどの受診者が問題を感じていなかった。当院の具体的な感染防止策は、健診関連団体から合同で成された「厚労省への要望書」と「健診実施機関における健診実施時の新型コロナウイルス感染症対策」を準拠しており、詳細は各団体のホームページから確認頂きたい。この感染防止策の有効な活用として、受診者にその防止策を明確に示す、“見える化”が重要である。本アンケート調査で感染防止策をよくないと感じた受診者の中には、受診者の触れる検査機器の消毒について不安視する意見が見られた。当施設では感染対策にならない受診者毎に検査機器をエタノール消毒と清拭している。しかし、これが見えていないことで不安を感じる受診者が一定数存在する。そのため、感染防止策を受診者に明示することが、安心できる受診環境の構築に不可欠である。そのため、当施設では感染予防対策を明示するよう感染防止策の周知に勤めている（図2）。

また、このコロナ禍にあって、物理的な感染防御策としてオンライン会議や講義など情報通信技術（ICT）が普及してきている。医療においてもオンライン診療の発展は目覚ましく注目すべき手法である。この応用により受診者の院内滞在時間を短縮することで、密環境を回避し、感染対策になることが期待される。このようなICT導入についての受診者の受け入れ状況を調べるため、“4. 人間ドックの結果説明をオンライン化した場合に利用するか”の質問を行った。すると、70%以上の受診者が利用について積極的な考えを持つことが示された。人間ドックのICT導入について十分に検討できる環境があることが示された。

おわりに

人間ドック施設においては with コロナ時代をどのように乗り切るか、強い不安の中で運営を行っていることと思います。今回の調査によりコロナ禍にあっても受診者の人間ドックへの期待は大きく、我々の日々の仕事を評価してくれていることが示されました。本

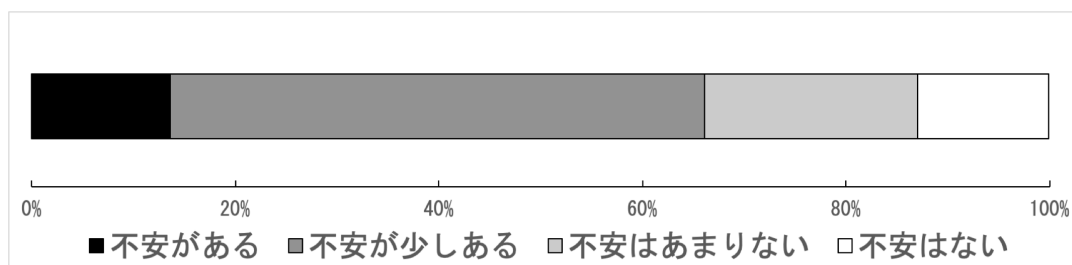
報告が人間ドックに関わる皆様にとってコロナ禍を乗り切る励みになることを祈っています。皆で with コロナ時代を乗り越えましょう。

【引用】

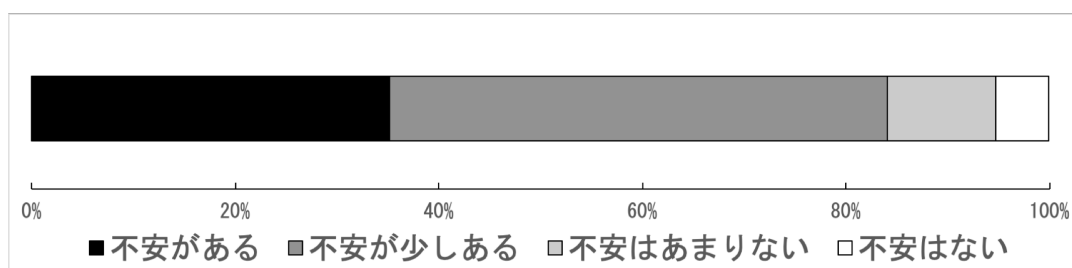
1. (一社)日本総合健診医学会、(公社)日本人間ドック学会、(公財)結核予防会、(公社)全国労働衛生団体連合会、(公財)日本対がん協会、(公社)全日本病院協会、(一社)日本病院会、(公財)予防医学事業中央会．“健康診断実施時における新型コロナウイルス感染症対策について”． 2020-05-14. <https://www.ningen-dock.jp/wp/wp-content/uploads/2020/03/b3d5de7264374c2c28ca450bb54f758d.pdf>、(参照 2020-08-14)

図 1. アンケート結果

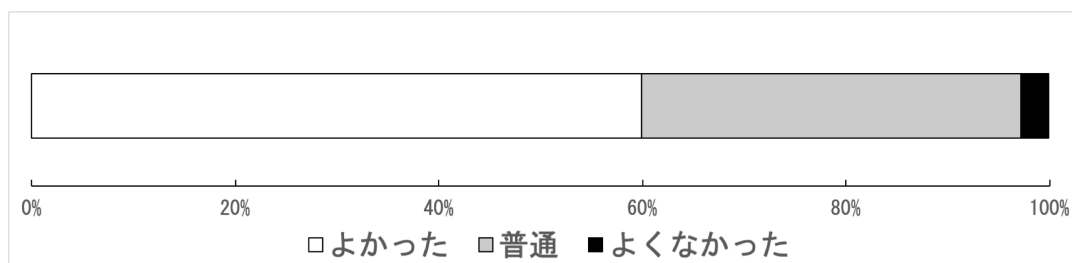
人間ドック受診をすることへのコロナ感染への不安の有無



コロナの流行により健診が受けられなくなる事への不安の有無



当院の感染防止対策についての評価



人間ドックの結果説明をオンライン化した場合に利用するか

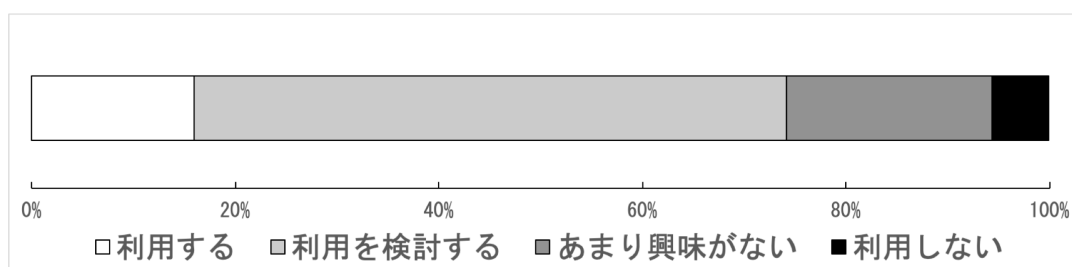


図 2. 当院の感染防止策掲示例

大宮シティクリニックの三密対策	
当クリニックにおいては、「3つの密」（密閉、密集、密接）を避けるべく、下記のような対策を行っております。	
<u>《密閉対策》</u>	
1. フロアの換気は 1時間に約2回 になっています。 2. 各部の扉を開放しております。 3. 各検査室内にはサーキュレーターを必要に応じて配置し、空気の滞留がないように配慮しております。	
<u>《密集対策》</u>	
1. 当院の健診フロア面積は、およそ1200㎡です。ソーシャルディスタンスを保つためには、 一人当たり4㎡ とされております。 ピーク時の受診数は約120名及び健診スタッフ約80名を含め、 必要面積である800㎡を十分確保 しております。 2. 検査の流れによっては、部分的に密集が発生する場所については、 受入れ人数に制限を設けております のでご協力お願い致します。	
<u>《密接対策》</u>	
1. 受付・検査等で対面する場所には、アクリル板を設置して飛沫感染防止対策を行っております。 2. 各種検査機器及びドアノブ等のアルコール消毒を実施しております。 3. 新型コロナウイルス感染者との濃厚接触を判断する目安は「1メートル以内かつ15分以上の接触」となっておりますので、「密接」を避けるための、 各検査は10分以内に実施 するよう配慮しております。 4. 職員の健康管理には細心の注意を払うとともに、手洗い・うがい・手指消毒を徹底しております。	
<u>《受診者様へのお願い》 感染予防にご協力お願いします</u>	
1. お待ちいただく際の 会話はお控え ください。 2. 自主的な 手指消毒・手洗い をお願いします。 3. 他の受診者様との間隔をお取りいただき、混雑状況に応じて第二待合室でお待ちいただく等 の感染予防対策へのご協力をお願いいたします。 4. 咳・くしゃみエチケットご協力ください。 5. マスク着用でのご受診をお願いいたします。	
共にコロナと戦い、自身の健康を守り抜きましょう！！	